

## 憲法を改悪し国防軍を設けることと、総国民を貧困にすること、これぞ一体改革だ

福地春喜

昨年末の総選挙後自公政権に戻り、安倍政権が誕生しました。「憲法を変え、国防軍を創設する」という。他方、社会保障財源はあらゆる面で削られつつあって、国民の99%は窮乏化し、日々生活維持が困難となるばかりです。この2つのこと、私はこれぞまさしく一体改革（改悪）だと考えています。

前政権は、「社会保障と税」の一体改革と称し、いわば国民を騙して、増税を決定し、社会保障を削減する（生活保護費削減や年金支給額削減などなど）ことを強行しました。今思うに、この一体改革は必然性のないことで、増税と社会保障削減を、タマタマ同時進行させて、両方を改悪したことでしょう。しかし、現政権の国防軍を創設し軍国体制を作ることと、総国民を貧困に陥入れることは、一体とする必然性があることがらです。なぜなら、貧困化しなければ、兵隊になる者の数が増えないからです（軍隊を作っても、兵隊が集まらなければ、機能しない。的は若者でしょうが、収入のない若者を陰ながら支えている親や祖父母も貧困にしなければ効果はありません）。1%と言われる反動勢力（いま政権を握っている）は、現にいまこの一体改革を進めているのではないのでしょうか。“貧すれば鈍する”と言われますが、品性のある人として、本当に貧すれば上官の命令1つで

何でもする人間に変質してしまうということなのです。

明文改憲案は、来る参院選後に出てくるだろうと言われています。だからして、改憲勢力が参院で3分の2にならないようにするため、参院選が最重要だと言います。私もそう思っていますが、貧困化することは日々刻々と進められているのです。だからして、今すぐ闘いの行動を進めなくてはならないと思います。選挙闘争オンリーとなったら、私は参院選も負けるのではないかと危惧しています。

武器輸出三原則を緩め、安保で逞しい国との共同開発を認めたのは、前政権野田内閣でした。これを受けて、現安倍内閣は三原則を骨抜きにしてみました。さらに非核三原則も骨抜きにしようと画策しています。要するに明文改憲案の提案は後まわしにしても、軍国体制作りは、日々着々と進められているのです。オスプレイを受け入れたのは前政権でしたが、それを受けてオスプレイを全国的に配置しようと現政権はたくらんでいます。前政権からリレーして現政権は、着々と進めているのです。参院選後は、下地が出来上がって、形式を整えるための明文改憲となるのではないのでしょうか。

今こそ、総国民は憲法を生かすため、あらゆる面で行動をしなければならないでしょう。世界観が異なっても、“2度と戦争はさせない”という一点で行動する国民運動を、大々的に進展させようではありませんか。貧困打破と憲法を守らせる闘いを！（草の根運動会員）